

キーワードは“ベストプラクティス”！ 包括的なエンドポイントセキュリティ対策を 実現する「ESET PROTECTソリューション」

新型コロナウイルスの感染拡大以降、人々の働く環境の多様化は急加速しており、それにともないセキュリティのあり方も根本からの見直しが進められるようになってきた。とりわけ影響が大きいとされるのが、エンドポイントを取り巻く環境の変化だ。テレワークの普及により、インターネットへの直接接続、端末の持ち出しが増えたことはもちろん、クラウドアプリケーションやオンラインコラボレーションツールの利用も増えているなど、環境の変化がもたらすエンドポイントへのリスクの増大に対し、企業には包括的な対策が求められているのである。こうした新しいセキュリティニーズの高まりを受け、いち早くソリューションを提示したのが、キャノンマーケティングジャパン(以下、キャノンMJ)である。同社は2021年7月1日、法人向けエンドポイントセキュリティのラインアップを刷新し、包括的な対策を実現する「ESET PROTECTソリューション(以下、EPソリューション)」の提供を開始した。EPソリューションは、どのような考え方を以って、どのような対策を実現するのか、キャノンMJで同製品のプロダクトマーケティングを担当する植松 智和 氏に解説いただいた。

働く環境の変化が、従来型のセキュリティ対策を無効化しつつある

——新たに販売を開始したEPソリューションとは、どのようなニーズや課題を受け、リリースされた製品なのでしょうか？

植松氏：まず、カテゴリーとしてはエンドポイントセキュリティに属する製品となります。ここは、ESETが最も得意とする領域であり、30年以上にわたり蓄積した知見やノウハウがEPソリューションにも活かされています。

EPソリューションが生まれた背景としてはやはり、コロナ禍を受けての環境の変化——とりわけ働く環境の変化です。エンドポイントの社外利用(在宅、サテライトオフィスなどでの勤務)が進むことで、エンドポイントを取り巻くリスクは増大・深刻化しています。これは主要となるセキュリティの対象が、境界からエンドポイントへと移り変わっているとも言えます。

——「境界からエンドポイントへ」というのは、どういった意味になるのでしょうか？

植松氏：まず着目したいのは管理のあり方の課題です。これまでは、同じオフィスで隣り合わせに座り、上司も従業員を見渡せる環境であったため、ある意味ガバナンスが効いていましたが、テレワークではそうしたガバナンスが失われ管理が行き届かなくなります。こうしたセキュリティ上のガバナンスの低下というのは、働く人々の意識の変化とも大きく関係してきます。

たとえば、オフィスであれば周囲に同僚がいて、ある種の緊張感をもって仕事をしていたのが、家では緩んでしまう傾向にあるといったことがあげられます。そのため、迷惑メールやフィッシングメール、さらには標的型攻撃のメールなども、周囲に同僚がいれば「怪しいメール来てない？」などとコミュニケーションすることで防ぐことができたのが、家の中ではつい……、なんて事態も生じてしまうわけです。

また、エンドポイントセキュリティのベースとなるのが定義ファイルですが、オフィス内であれば常に最新の状態に保てるので、新たな攻撃も防ぐことができます。しかし、テレワークになると、最新の定義ファイルに更新しないまま仕事を続けてしまうケースも増えてきます。そうすると、何らかのファイルを開いてマルウェアに感染してしまうリスクも高まることになります。

このように、働く環境の多様化によって管理が行き届かなくなるといった課題に加えて、同じく働く環境の変化がもたらすネットワークの接続形態の変化もまた、セキュリティ上の大きな課題となってきています。

従来のオフィス中心の働き方であれば、複数の防御方法による境界型防御がメインとなり、最後の砦がエンドポイントという位置づけでした。それが、在宅ワークをはじめとするテレワークになると、境界での多層防御



キャノンマーケティングジャパン株式会社
セキュリティソリューション商品企画部 課長代理
植松 智和 氏

では守りきれなくなってしまうのです。場合によっては、管理者が不透明なカフェのネットワークやFree Wi-Fiなどから会社のシステムへとアクセスするようなケースも生じてきますので、そこがサイバー攻撃の温床になっていたりもします。つまり、境界での多層防御の有効性が一気に失われてしまったため、エンドポイントの端末だけで守らないといけなくなってきているのです。

そしてもうひとつ、テレワークにともない、オフィスと自宅、さらにはカフェなど、端末の持ち出しが増えることで、紛失や盗難などによる物理的な情報漏えいが生じるリスクも急激に高まっています。

つまり、管理が行き届かなくなるとともに、境界での多層防御が難しくなり、また紛失盗難のリスクも増大しているというのが、現在のエンドポイントを取り巻く現実的な課題であると言えるでしょう。そしてこれらの課題を解決するためには、エンドポイントを多重で防御し、統合管理するとともにクラウド利用へのニーズにも対応することが肝要となってきます。このような多様な対策を包括的に提供することができるのが、EPソリューションなのです。

いまエンドポイントに求められる 最新の対策をオールインワンで提供

——では、EPソリューションが提供する具体的な機能を教えてください。また、既存のESET製品において、どのようにラインアップされているのかも教えてください。

植松氏：一言で言えば、現在のセキュリティ課題を受けて求められる

エンドポイントを取り巻く環境の変化

働く環境の多様化



- 在宅、サテライト等勤務場所の多様化
- インターネットへの直接接続の増加
- 端末持ち出し頻度の増加

急増するクラウドへのニーズ



- クラウドアプリケーション利用の増加
- コラボレーションツール利用の増加
- セキュリティ対策のクラウド化

リスクの深刻化



- 管理不備により生まれる脆弱な環境
- RDP攻撃などテレワークを狙う攻撃
- 紛失盗難など物理的な情報漏洩事故

エンドポイントを包括的に守る必要性の高まり

社内外問わず多重で防御

+

多重化した対策を統合管理

+

クラウドを守る、クラウドで守る

各種対策をパッケージ化した、包括的なエンドポイントセキュリティソリューションがEPソリューションです。

これは、2021年2月にラインアップされたセキュリティ管理ツール「ESET PROTECT」を中核に据えた新たなソリューション群となっており、現在の働き方、個々の端末が置かれる環境に合わせ、より管理に重きを置いたソリューションであるという意味を含め、「ESET PROTECT」という名称を用いています。どのような働き方であっても、ガバナンスを効かせながら最新の防御ができる状況にすること。それこそがEPソリューションのメインコンセプトになっています。

具体的には、従来からのエンドポイント保護に加えて、クラウドサンドボックスやフルディスク暗号化、そしてクラウドアプリケーションセキュリティといった各種対策をワンパッケージにして提供します。新たに開発したクラウドアプリケーションセキュリティ以外は、従来からあるESET製品を組み合わせるものとなりますが、これがキャンノンMJとして、エンドポイントを取り巻くさまざまな脅威に対処するうえでのベストプラクティスであり、それを改めてパッケージングして提供することにしました。つまり、多方面の脅威に対して包括的に対応できるというのが、EPソリューションの大きな強みとなっています。

EPソリューションが提供する各種機能

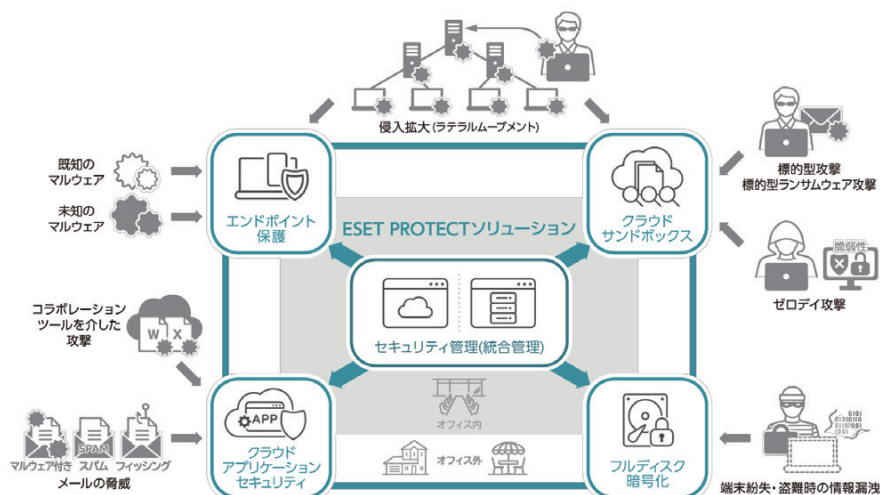
- セキュリティ管理ツール
- エンドポイント保護
- クラウドサンドボックス
- フルディスク暗号化
- クラウドアプリケーションセキュリティ

——包括的なソリューション提供によるメリットは？

植松氏：これまでのセキュリティ対策というのは、とすればマルチベンダーであることを良しとする傾向も見られました。“エンドポイントならばこの製品”、“ゲートウェイはこの製品”といった感じですね。しかし、そうした時代はもう終わりを迎つつあるのではないのでしょうか。EPソリューションでは、先述したような複数の対策をひとつのソリューションとしてオールインワンで包括してパッケージングすることで、統合管理を実現していますので、より管理を充実させ、管理に掛かる負荷を軽減することにも貢献します。

ESET PROTECTソリューション

各種対策をパッケージ化した包括的なエンドポイントセキュリティソリューション



——コスト面に関してはいかがでしょうか？

植松氏：もともとESET製品は、コストパフォーマンスにおいても高い評価を得ています。実際、顧客満足度調査^{*}などでも、その高い検出力やサポート力とともに、コストパフォーマンスへの評価も非常に高くなっているのです。

そして今回リリースしたEPソリューションにおいても、これまでお話したようにさまざまな機能を包括してパッケージングすることによって、単体の製品を組み合わせるよりも割安に提供することができています。

たとえば、「ESET PROTECT Advanced クラウド」の機能を単体製品の組み合わせで補おうとした場合、100ライセンスの契約でエンドポイント1台当たりの年額費用6,940円に加え、セキュリティ管理ツール用のサーバー費用も加味しなければなりません。対して、「ESET PROTECT Advanced クラウド」では、この管理ツールのクラウド提供も含め、1台当たりの年額費用を4,200円にまで抑制することができます。

充実したラインアップ! 企業規模ごとに最適化されたベストプラクティスを実現

——EPソリューションのラインアップについて紹介いただけますか。

植松氏：標的型攻撃や情報漏えいなどへの包括的な対策、テレワークを含む社内外の端末管理など、ニーズに合わせて8種のソリューションをラインアップしています。大きなカテゴリーとしては、クラウドでのセキュリティ管理なのか、もしくはオンプレミスでのセキュリティ管理であるかのいずれかに、中堅・大企業向け(100名以上)か中小企業向け(99名以下)かという要素をかけた分類となります。こうした豊富なラインアップにより、お客さまに最も適したベストプラクティスな導入を可能としているのです。

このうち中堅・大企業向けのラインアップでは、エンドポイント保護とクラウドサンドボックスを中核とする4つのソリューションを用意しています。いまやクラウドサンドボックスは中堅・大企業においては必須の機能だと言えるでしょう。そしてEPソリューションのクラウドサンドボックスは、ランサムウェアやゼロデイ攻撃に対し、クラウドテクノロジーにより自動解析・自動防御を実現しています。そしてもうひとつ、クラウド版のEPソリューションにあるセキュリティ管理ツール「ESET PROTECT Cloud」では、ESET社がSaaSとして管理コンソールを提供します。これにより、どこからでも、どこにいても、エンドポイントを一元管理することが可能となるのです。加えてESET社で常に最新の環境を保ち続けてくれることはもちろん、そもそもこの管理コンソール自体も機能追加やUI改善も含めて常に新しく進化し続けます。

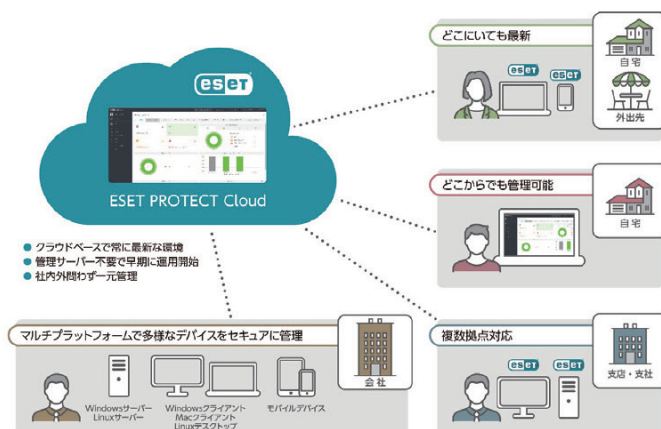
ESET PROTECTソリューション ラインアップ

標的型攻撃や情報漏洩などへの包括的な対策、リモートワークを含む社内外の端末管理など、ニーズにあわせて8種のソリューションをラインアップ。お客さまにあったベストプラクティスなソリューションを導入できます。

	クラウドでのセキュリティ管理	オンプレミスでのセキュリティ管理
中堅・大企業向け (100名以上)	 ESET PROTECT Complete クラウド	 ESET PROTECT Advanced オンプレミス
	 ESET PROTECT Advanced クラウド	 ESET PROTECT Essential Plus オンプレミス
中小企業向け (99名以下)	 ESET PROTECT Entry クラウド	 ESET PROTECT Entry オンプレミス (旧名称: ESET Endpoint Protection Advanced)
	 ESET PROTECT Essential クラウド	 ESET PROTECT Essential オンプレミス (旧名称: ESET Endpoint Protection Standard)

クラウド型セキュリティ管理ツール (ESET PROTECT Cloud)

どこからでも、どこにいても、エンドポイントを一元管理



- 社内外を問わずエンドポイントをセキュアに管理
- サーバー構築・保守不要で早期の導入・運用開始と運用コスト低減を実現
- 自動バージョンアップで常に最新の環境を利用可能
- 多様なデバイスにまたがる多重の対策を1コンソールで管理

詳しくは>> <https://eset-info.canon-its.jp/business/ep-cloud/>

バージョンアップは、およそ9週間ごとに新しい機能が追加されています。たとえば、EPソリューションを発表した一週間後にはiOSも管理対象となるバージョンアップが行われています。また間もなく、最新バージョンのエンドポイント保護機能のリリースも計画しており、エンドポイント保護機能にも自動バージョンアップの機能が加わる予定となっています。これにより、管理機能も保護機能も常に最新の状態で保てるようになります。

Withコロナ時代のセキュリティのあり方を提案し続ける

——最後に、Withコロナ時代のセキュリティ対策のあり方について、悩みを抱える企業の担当者に向けたメッセージをお願いします。

植松氏：EPソリューションの基本コンセプトのひとつでもある「ベストプラクティス」というのが、これからのセキュリティ対策の根本的な考え方となるのではないのでしょうか。もちろん、これまでのセキュリティ対策のあり方もそうだったわけですが、そこにテレワークの普及などがより拍車をかけたわけですね。より多くの脅威に対して、セキュリティベンダー側もいろいろ

な製品を提供してきたわけですが、結果として何をどう使えばいいのかわからないといったユーザー企業側の悩みも増やしてしまうことにもなりました。

今回のEPソリューションでは、ベストプラクティスとしてひとつのパッケージでソリューションを提供することで、そうした悩みも解消しているのです。

多くの企業では、テレワークでの仕事をスムーズに行える環境をようやく整え終わり「では、次にやるべきことは？」ということで、セキュリティ対策の見直しに取り組もうとしているのではないのでしょうか。とくにWithコロナ時代とも言われる現代において、従来のセキュリティ対策の延長線上ではダメだという事実をみなさん理解するようになっていきます。当社としてもEPソリューションをはじめ、各種ソリューションを提案し続けることで、より最適な“解”を導いていきたいと考えています。

※キャノンマーケティングジャパンが「日経コンピュータ 2021年9月2日号 顧客満足度調査 2021-2022 セキュリティ対策製品部門1位」を獲得。

エンドポイントに必要な機能を併せ持つ、総合セキュリティソリューション

ESET PROTECT Advanced クラウド

ESET PROTECT Advanced クラウド は、総合的なエンドポイント保護機能に加え、クラウドサンドボックスやフルディスク暗号化機能、クラウド型セキュリティ管理ツールによる包括的なセキュリティ対策を実現するソリューションです。社内勤務はもちろん、リモートワーク時のクライアント端末（エンドポイント）管理も、セキュリティ管理者の場所によらず実施可能です。

詳細情報
はこちら

▶ <https://eset-info.canon-its.jp/business/ep-advanced-c/>



用途に応じた多彩なラインアップで包括的なエンドポイントセキュリティを実現

ESET「法人向けソリューションラインアップ」

ESETが提供する法人向けソリューション（EPソリューション）は、クライアント端末数、必要な機能、オンプレミス・クラウドなど、お客さまの用途や環境に合わせ、豊富なラインアップでエンドポイントにおけるセキュリティ対策を包括的に実現します。

詳細情報
はこちら

▶ <https://eset-info.canon-its.jp/business/lineup/>



ESET、ESET PROTECT、ESET PROTECT Cloud、ESET PROTECT Advancedは、ESET, spol. s r.o.の商標です。Windowsは、米国Microsoft Corporationの、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。Macは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。仕様は予告なく変更する場合があります。

製品に関する情報はこちらでご確認いただけます。



セキュリティソリューション ホームページ

canon.jp/it-sec

●お求めは信用のある当社で

Canon キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6 CANON STOWER

2021年9月現在

MEPS2109CMJ-PDF